

平成30年度 学校自己評価表 (年度当初)

|                   |   |
|-------------------|---|
| 中長期目標<br>(学校ビジョン) | 1. 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。<br>2. 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。<br>3. 様々な教育活動をおとして、他人を思いやり、友情を育み、心身ともに健全な態度を養う。<br>4. 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。 |
|-------------------|---|

|          |   |
|----------|---|
| 今年度の重点目標 | 1. 心身ともにすこやかな生徒の育成<br>2. 夢や希望をかなえられる学校づくり<br>3. 地域・地元へ愛され、信頼される学校づくり<br>4. ものづくり教育の推進 |
|----------|---|

| 年度当初                    |   | 評価結果  |  |  |         |    |      |
|-------------------------|---|---|--|--|---------|----|------|
| 評価項目                    | 評価の具体項目   | 現状  | 目標(年度末の目指す姿)   | 目標達成のための方策   | 経過・達成状況 | 評価 | 改善方策 |
| 1. 心身ともにすこやかな生徒の育成      | 生徒一人ひとりを活かす人間教育を促進し、いじめや差別のない望ましい人間関係を構築していく。<br>低学年からの意識づけを大切にして、正しい倫理観・道徳観を身に付けさせ、基本的な生活習慣を確立させる。特に「あいさつ」「服装」「時間を守る」を大切にする。<br>部活動の教育力を活かして、心身を鍛えるとともに基本的ルールやマナーを体得させる。 | 全校の90%が無遅刻であり遅刻の数はたいへん少ないが、防げる遅刻の割合が多い。<br>服装、マナー、エチケットは向上しているが、学校外において校内と同じ意識を持つという点では、まだ不十分な面がある。あいさつも声が小さく形だけにとどまっている生徒が増えてきた。<br>部活動には90%以上の生徒が加入し熱心に活動している。  | ○全校の遅刻回数が年間8%(35回)以下となる。<br>○朝読書の時間は全校が静かな環境で落ち着いて読書を行う。<br>○社会人として通用するマナー、身だしなみ、言葉遣い、+αのあいさつが実践できる。<br>○いじめや差別のない望ましい人間関係を構築できる。<br>○自分自身が大切な存在であり、また他の人も大切な存在であることを再確認する。<br>○生徒の部活動加入率95%以上。                                  | ○登校した生徒から読書を開始し、8:30には静かな状態となり、安易に遅刻できない雰囲気を作り出す。<br>○遅刻者には、時間を守ることやSHRに出席することの大切さを本人・保護者に伝える等、安易な遅刻・欠席が減るよう、その都度指導する。全校で決めた数値目標を達成しようと努力することが学校の一員としての意識の高さであることを伝えていく。<br>○朝読書の時間は、全校生徒と全職員が一斉に静かに読書することを徹底する。<br>○毎月の服装指導で身だしなみの点検を行い、いつでも面接試験が受けられる姿の確認をする。<br>○校外での服装・あいさつを含むマナーやルールを守るよう日常的に指導する。また、日常会話の中で、正しい言葉遣いを指導していく。<br>○人権教育LHRにおいて人権教育推進委員会と教職員が綿密に打合せを行い、生徒が主体的に取り組めるように工夫する。<br>○性と生を考える学習を促進する。<br>○生徒の部活動状況について、顧問、生徒会、担任、保護者と連携を密にし、情報を共有して、退部者・未加入者を抑え、加入を促進する。 |         |    |      |
|                         |   | ○環境に対する意識向上を目指す。  | ○学校生活や実習をとおして、5Sの徹底に努める。<br>○環境HRを実施すること、保健委員の活動を中心に、環境に対する意識を高めていく。<br>○毎日の掃除を時間いっぱい使い、奉仕共助の心を涵養する。   |  |         |    |      |
|                         |   | ○低学年からの進路意識の向上とインターンシップ・デュアルシステムの充実による勤労観・職業観を育成する。<br>○年内就職内定率100%。  | ○進路意識を持たせるため、進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施する。<br>○定着指導・求人依頼・企業開拓のため、進路部で県内の企業を積極的に訪問し企業や産業界の情報を積極的に伝える。<br>○インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指導を徹底・充実させる。<br>○職場見学やオープンキャンパスへの参加を促し、自ら考え行動できるよう指導する。<br>○企業見学・社会人講師・技能士の派遣制度等を活用して、職業観の育成に努める。 |  |         |    |      |
| 2. 夢や希望をかなえられる学校づくり     | 地域や企業と連携し、実践的な『キャリア教育』を推進し、生徒の興味・関心や適性に応じた進路実現を目指す。<br>資格や検定の取得を促すことで基礎学力の定着と主体的に学ぶ姿勢を育てる。<br>早期に進路意識を持ち就職・進学に対応できる学力を身に付けられるような支援体制を整備する。                                | 具体的な進路目標を定めているが、目標のために何をどのように取り組めば良いか計画できない生徒が多い。また、基礎学力の定着や文章力、表現力に不十分さがある。<br>就職希望者支援体制については、ほぼ完成されているが、進学者指導に関しては、個別指導に頼る部分が多い。特に4年制大学への進学指導については大学固有の入試制度の研究など支援体制の整備が必要である。<br>各教科で公開授業を計画的に行っているが、教科の枠を越えた組織的な授業研究には至っていない。 | ○基礎学力の定着と表現力を向上させる。<br>○生徒全員の家庭学習時間が平日1時間以上、休日2時間以上を目指す。   | ○進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討していく。<br>○3年生の進路が一段落する12月から2年生の進路指導に取り組み、2月学年末考査後には具体的な進路実現に向けて行動できるよう、計画的に個別に指導していく。<br>○個人面談等を活用し、学習時間の確保と学力向上に努める。<br>○基礎力診断テストでの調査にある家庭学習時間及び学校アンケートを利用し、家庭での学習と成績との関連を振り返らせ、家庭学習の大切さを伝える。   |         |    |      |
|                         |   | ○学習指導委員会による進路支援体制を確立する。<br>○授業改善・教科指導力の向上に向けて教師の意識が高まる。<br>○公開授業への教科の枠を越えた参加者が増加し、教員間で授業方法についての研究が進められるようになる。   | ○進路部を中心に大学進学希望者のための、大学調査・大学訪問を実施する。<br>○授業改善・教科指導力の向上に向けて公開授業を各教科で実施すると共に、職員ICT研修等も実施し指導力向上に努める。   |  |         |    |      |
|                         |   | ○資格取得を促進する。   | ○資格取得・上級資格取得のための計画的で充実した補習を実施する。資格試験の情報提供を行う。<br>○多様な進路選択を可能にするためにも資格取得にチャレンジするように促す。<br>○専門人材育成重点校の数値目標に挙げている資格取得の合格者数を上回るよう、朝補習や長期休業中などに計画的に補習を行う。<br>○図書館の検定資格取得コーナー、進路や教科指導に関する本を充実させる。                                      |  |         |    |      |
| 3. 地域・地元へ愛され、信頼される学校づくり | 広報活動に力を入れ、学校理解・PRに努めるとともに、地域・産業界との交流を進め相互理解を深める。<br>国際理解教育に努め、体験的な学習を取り入れ、実践的な態度や資質、能力を育成する。  | 中学校へ出向いての学校説明会や本校での学校説明会により中学校教員の本校への理解は進んできた。<br>課題研究等による地域との交流活動が定着し、好感を持って地域に受け入れられている。  | ○推薦・一般入学者選抜における各科の募集定員の充足。<br>○学校間交流等、国際理解教育を推進する。   | ○中学校体験入学の内容を検討する。<br>○生徒の活動の様子(課題研究・社会人講師など)や学科の取組、部活動の様子等、HPも利用しながら積極的にPRする。<br>○学校間交流等をとおして国際感覚豊かな職業人の育成に努める。  |         |    |      |
|                         |   | 「ものづくりコンテスト」への取組や社会人講師による指導によって、より高いレベルの技術を習得しようとしている。また、技術を習得するだけでなく、習得した技術を社会に活かそうとする取組も行われている。   | ○ものづくりコンテストを目指した取組を一層推進する。<br>○学科間連携を促進させる。  | ○鳥取県電業協会中部支部とのネットワーク会議を開催し、地域産業界との連携を図る。<br>○ものづくりコンテストや社会人講師・技能検定の受検などの取組を通じて技能向上を目指す。<br>○生徒の実態に合わせて、総合選択制が有効に機能するように選択群のあり方を検証していく。<br>○課題研究などで学科間の連携を進める。  |         |    |      |
| 4. ものづくり教育の推進           | 地域産業界や企業等と連携し、専門分野についての基本的知識・技術を持ち、チャレンジ精神に富んだ人材を育成する。<br>学科の枠を越えて生徒理解を図り、「ものづくり」に協力して取り組む体制づくりに努める。  |   |  |  |         |    |      |

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し  
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]